

別冊歴史読本

日本大空襲

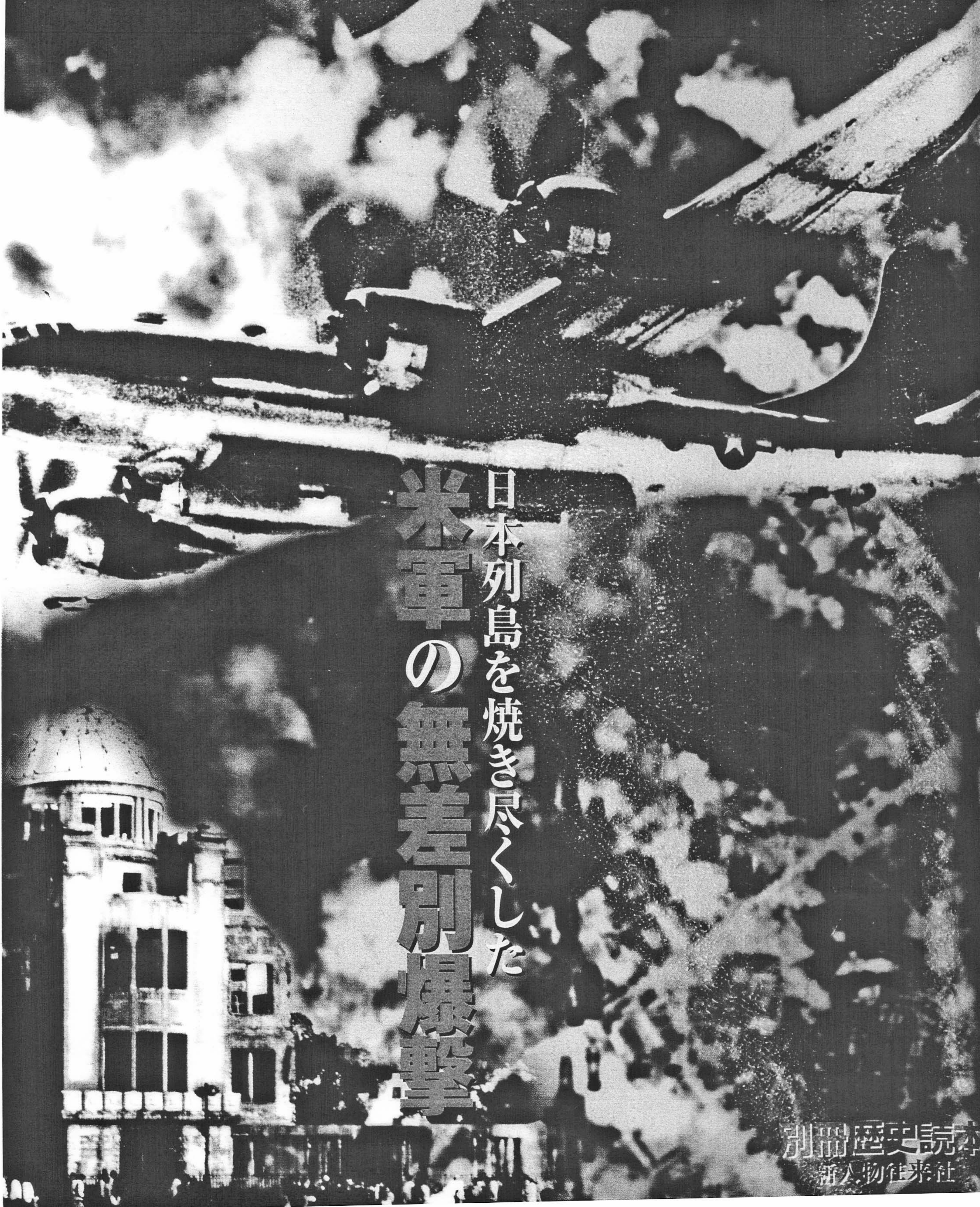
日本列島を焼き尽くした米軍の無差別爆撃

新

210.7

二

日本大空襲



日本列島を焼き尽くした

米軍の無差別爆撃

別冊歴史読本
講談社

亜燃料の石油施設を狙ったものである。石油業界トップクラスの丸善石油は数十発の投下で壊滅した。原油は地上で十日間ほど、また下津湾の海上に流出した原油は三日間、燃え続けた。

下津町の死者は二十七人、負傷者は六十八人、全焼全壊は三十一戸、半焼半壊は八十五戸だった。

京都府の空襲

誤爆説とはいえない京都空襲

京都への空襲は「日本の古都であり、日本の芸術文化の殿堂である」ことから、誤爆説が伝えられていた。だが、米軍機による京都市内空襲を検証すると、決してそうではない。

最初の空襲は二十年一月十六日深夜、京都市東山区馬町一帯への爆撃で、死者は四十一人、負傷者は五十人、家屋全壊は二十九戸にのぼった。最大のは六月二十六日朝、上京区出水地域への爆撃で、死者五十人、負傷者六十六人、全壊家屋七十一戸を出した空襲であり、これは明らかに一般住民を狙った空襲である。

米軍が、日本の文化を焼くわけにはいかなく、この作り話。たまたま代表的な名所・旧跡がやられなかったということまで美談が生まれた

のだろう。

軍事施設を狙った舞鶴空襲

軍港と海軍工廠があった舞鶴は軍事生産を断つうえから米軍の攻撃目標となっていた。

当時、従業員数は学徒動員による生徒や女子挺身隊を含め、約四万人にも達していたという。

二十年七月二十九日午前八時三十分頃、空襲警報が発令されるや、ものすごい爆発音とともに工場は破壊された。工員、動員学徒、女子挺身隊など九十七人が死亡、百数十人が重軽傷を負った。

翌三十日午前七時頃、再び米軍の艦載機約六十機によって舞鶴湾上の艦船が攻撃され、海上に逃れた乗組員を機銃掃射した。艦船は沈没したり、座礁したりした。乗組員などの死者は八十三人、負傷者は二百四十七人を出した。海辺には無数の魚が白い腹を見せて浮かんでいたという（『日本の空襲―六』）。

この日は、宮津市も空襲を受けた。狙われたのは宮津湾に停泊していた駆逐艦「雪風」「初霜」、連絡船「慶尚丸」。これらの艦船は撃沈され、その乗組員百数十人が死亡した。また桜山公園の丘にも爆弾が投下され、子ども数人が死亡した。

そのほか、京都府下では被害は少なかったが、亀岡市保津町や久世郡佐山町、相楽郡笠

置町、多賀村などが空襲を受けた。

滋賀県の空襲

被害の大半は彦根市に集中

滋賀県は日本最大の湖「琵琶湖」があり、比叡、比良、伊吹、鈴鹿の各連山に囲まれた風光明媚な歴史の町であるから、隣接する京都、奈良と同様、空襲はないだろうと市民はタカをくくっていた。

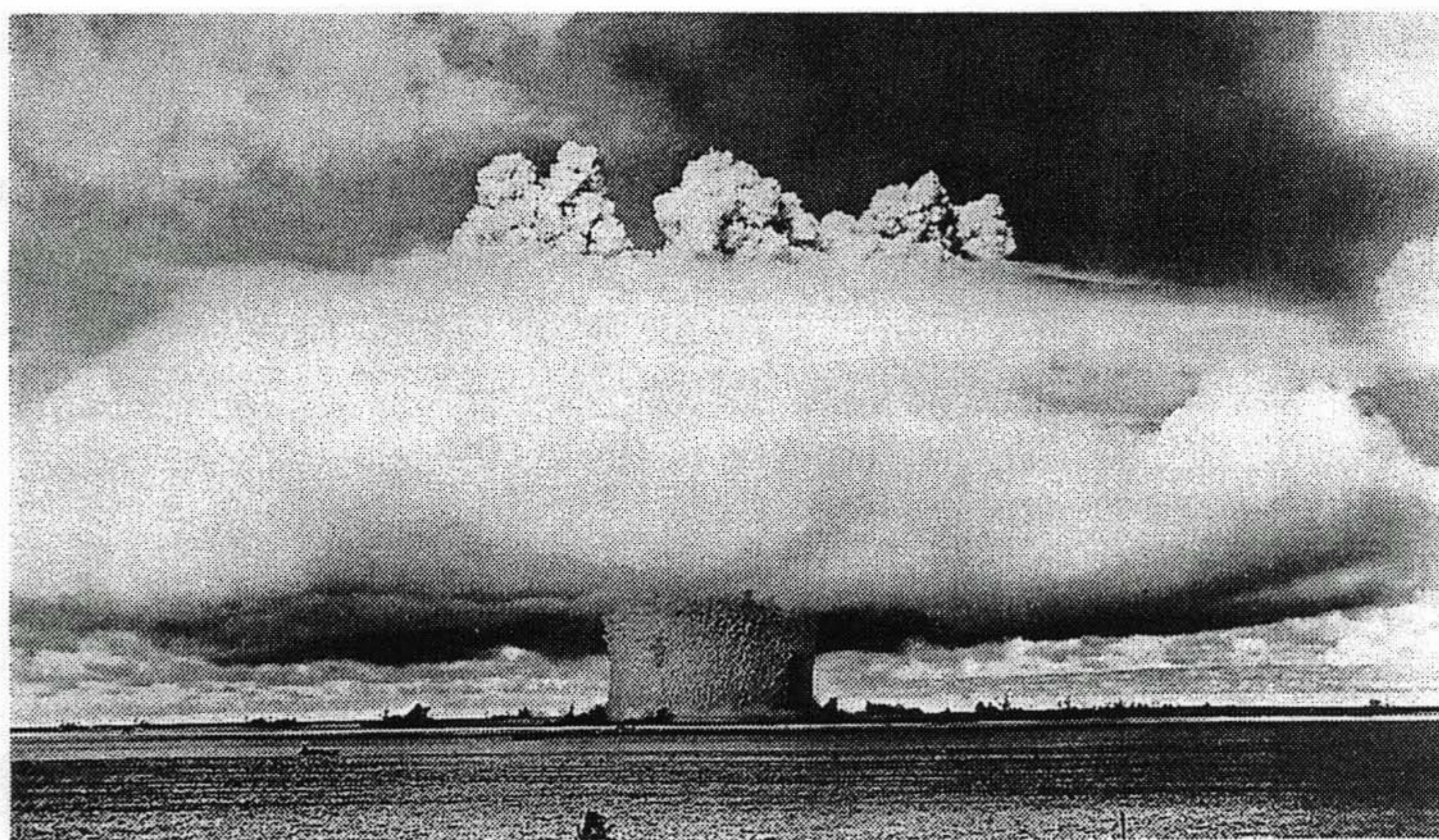
ところがどっこい、B29による中小都市の無差別爆撃が始まった五月以降、滋賀県も空襲に襲われた。五月十四日、野洲郡速野村に焼夷弾が投下され、農耕中の婦人三人が負傷した。

五月十七日、稲枝村に焼夷弾七百六十個が落とされたが、その被害は不明。六月二十六日、彦根市に約二十個の爆弾が落下。死者八人、重軽傷者十二人を出した。七月二十四日、大津市石山東洋レーヨン滋賀工場にB29が爆弾一個を投下し、兵器工場にいた従業員など十五人が死亡した。

七月二十五日、彦根市の軍需工場を狙った空襲があり、近江航空西馬場工場や小野田セメントなどが爆撃され、六人が即死、三十五人が重軽傷を負った。七月二十八日、彦根市の鐘紡長曾根工場、近江航空西馬工場が再び襲われ、馬一頭が斃死した。



■日本の伝統文化を数多く残す古都・京都にも空襲の魔の手は伸びた。写真は京都・上京区の住民が撮影した空襲被災地。



■宮津湾で空襲を受けた艦艇のなかには軽巡洋艦「酒匂」もあった。「酒匂」は終戦まで無傷で生き残り復員戦として活躍した後に、ビキニ環礁の水爆実験（写真）で戦艦「長門」や他国の旧式戦艦らとともに標的艦となった。

七月二十日午前六時、B29十数機が来襲、鐘紡長曾根工場や小野田セメント彦根工場を爆撃した。二人の負傷ですんだ。同じ日の午

後一時頃、艦載機四機が守山駅に停車中の列車に機銃掃射を浴びせ、死者三人、重軽傷者二十四人を出した。

七月三十一日正午頃、彦根市の南川瀬や西今などに爆弾各一個を投下したが、被害は僅少ですんだ。八月六日午前、鐘紡長浜工場に艦載機が来襲し、小型爆弾を投下、監視哨一人が死亡した。

以上が滋賀県の主な空襲である。その被害の大半は彦根市に集中していたが、総被害は死者三十五人、重軽傷百八十四人、建物の焼失二十となっている（『日本の空襲一六』）。

奈良県の空襲

書類焼失で被害は不明

二十三年十一月一日午後九時四十分頃発生した奈良市役所の火災によって、ほとんどの公式書類を焼失したため、奈良の空襲・戦災に関する記録資料は少ない。しかし、その後の調査で死者四人が明らかになったという。二十年六月一日、一機のB29が焼夷弾を投下、民家一戸が被災した。大阪空襲の余波だった。七月十日、下田村の太陽金剛砥工場が艦載機の機銃弾でやられた。七月十九日、阪谷国民学校が艦載機の攻撃を受け、校長が死亡した。八月八日午後一時頃、北今市に空襲があった。

奈良県の空襲については、これだけの記録しかないが、死者はもっと多かつたはずである。